

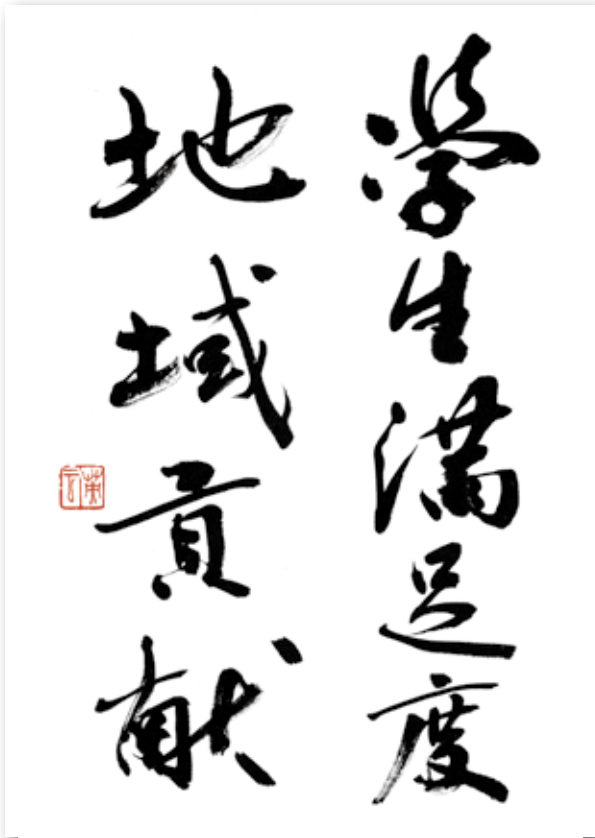
# 広報 しまだい

島根大学広報誌  
Shimadai Magazine  
February 2010  
Vol. 5



アジア陸上●女子3000m障害優勝  
**辰巳悦加**さんに  
聞く





## 地方国立大学の モデル校に

昨年の4月、学長に就任するにあたって、島根大学を「学生満足度日本一の大学」、「地方国立大学のトップ校」、とりわけ学生教育、学生支援、地域貢献のモデル国立大学にしたい、キーワードは「学生満足度」と「地域貢献」だと申し上げました。

すべての国立大学はこの4月から第2期中期目標計画期間に入ります。いよいよ各国立大学法人の力量が試されることになると考えています。島根大学で勉強し、学生生活を送ってよかった、島根大学が島根にあってよかった、と言われる大学にします。このことの達成に向けた次期中期計画では、本学の標語「人とともに 地域とともに 島根大学」を実現するための施策に重点を置いたところです。

この「広報しまだい」は6年前の法人化以来、本学の教育・研究活動の状況、学生の活躍、地域連携の取り組みなどについて地域の皆さま方にお知らせし、本学の様子をご理解いただくとともに皆さま方からも、ご意見をいただく情報交換の場になるような広報誌として発刊しているものです。

引き続き皆さま方からのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

島根大学長 **山本 廣基**

広報  
**しまだい**  
Shimadai Magazine  
February 2010  
Vol. 5

## C O N T E N T S

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 学長あいさつ●地方国立大学のモデル校に             | 2  |
| トピックス                           | 3  |
| 〈スペシャルインタビュー〉                   |    |
| 辰巳悦加さんに聞く                       | 6  |
| いま、注目されています！                    | 10 |
| 島根大学における地域貢献および<br>地域医療への貢献について | 16 |
| 平成21年度前期「学生表彰」                  | 19 |
| サークル情報                          | 20 |
| 地域で活躍する学生たち                     | 22 |
| 島根大学支援基金寄附者一覧                   | 23 |
| 同窓会から                           | 23 |



### 表紙写真

アジア陸上女子3000メートル障害で優勝した  
平成15年度卒業生の辰巳悦加さん  
(6ページにインタビュー記事掲載)

TOPICS 01

邑南町と包括連携協力に関する協定を締結



握手を交わす山本学長と石橋邑南町長(右)

本学は、邑南町と包括連携協力に関する協定を締結しました。この協定は、両者が連携・協力し相互の発展に寄与することを目的としているもので、8月11日(火)、松江キャンパスにおいて山本学長、石橋良治邑南町長ほか関係者が出席して調印式が行われ、協定書を取り交わしました。

調印式で山本学長は、「島根県においては大きなエリアを占める中山間地域のモデルでもある邑南町を課外活動・実習及び研究に活用させていただくことは、大学にとってもメリットが

ある。」と挨拶。また、邑南町の石橋町長からは、「これからの邑南町を支える人づくりのため、包括協定により相互の人的協力を深めるなかで、島根大学との更に太いパイプを築きたい。」と挨拶がありました。

協力する分野は、邑南町の教育、保健・医療・福祉、産業、環境、まちづくり等の地域課題に対する島根大学の有する知的財産の提供、島根大学の教育・研究及び社会貢献活動の円滑な推進に向けた諸支援等であり、すでに邑南町教育委員会で「学び合い型教育実践の学習会」が本学教員を講師に開催されているほか、「夏休み子ども学習相談事業」に教育学部の学生4名を相談員として派遣しています。

島根大学の包括的連携協定は、平成16年度の島根県との協定以降、自治体4機関、国1機関、企業1機関と協定を締結し、邑南町で7機関目となりますが、石見部の市町村との協定は初であり、今後邑南町が石見部での活動の拠点となるものと考えられます。

TOPICS 02

地域貢献推進室を設置

7月1日付けで学術国際部研究協力課に「地域貢献推進室」が総合理工学部2号館3階に設置されました。

今まで、学術国際部研究協力課と学術国際部社会・国際連携課でそれぞれ行っていた社会連携・地域連携関連

の事務処理を一元化し、業務の効率化を図ることを目的としています。



TOPICS 03

医学部附属病院開院30周年記念式典を挙



左から楊銀学寧夏医科大学附属医院長、滕京寧夏医科大学对外合作交流処処長、小林病院長

からも常に高度な医療を提供できるよう、取り組んでいく。」と決意を述べました。

続いて、長岡秀人出雲市長及び楊銀学寧夏医科大学附属病院長から祝辞が述べられ、附属病院の開院30周年を祝うとともに、今後の地域医療の発展及び寧夏医科大学附属病院との交流に期待が寄せられました。

引き続き、小林病院長から、2011年に完成予定の附属病院新病棟等の紹介が行われたほか、寧夏医科大学附属病院との医療交流について紹介があり、附属病院の高度医療の発展と両大学間の医療の更なる交流を願いました。

9月30日(水)、出雲市内のホテルにおいて、医学部附属病院開院30周年記念式典を挙行し、長岡秀人出雲市長を始め行政、医療関係者ら150名が出席しました。

式典では、今年医療交流協定を結んだ中国・寧夏医科大学から楊銀学附属病院長ら4名も招きました。

式典の冒頭、山本学長が「医学部附属病院は我が国初の生体肝移植等の新たな医療の提供など、時代や地域の要請に応えるべく、様々な取り組みを行ってきた。」と30周年を回顧し、「これ

医療の更なる交流を願いました。式典後の祝賀パーティーでは、小林病院長の挨拶、錦織厚雄島根県健康福祉部長及び江田小鷹島根大学医学部支援協議会会長からの祝辞に続き、佐々木雄三島根県議会が「対策推進議員連盟会長」の発声で乾杯。和やかな雰囲気にも包まれた中で開院30周年を祝いました。また、最後に行われたアトラクションでは、出雲地方の郷土芸能「安来節」が披露され、会場は大いに盛り上がりました。

TOPICS 04

山陰地区FD連絡協議会  
設立総会・第1回協議会を開催



本島根県立大学学長(左)と山本学長

る教育の質保証及び質向上を図ることを目的とするものであり、その目的の実現に向けて、地域における重要な人材養成機能を担う高等教育機関が、情報との交換・共有や合同事業、人材交流などの協働事業を推進していく核となるものであります。

第1回目となる協議会では、現時点での加盟校である、島根大学と島根県立大学の両学長を含め、大学間連携が求められる現在の高等教育状況や、今回の設置の背景にある、文部科学省特別教育研究経費事業における、大学間連携の計画、更に、現在、具体的に進行している協働事業の計画及びこれからの課題などについて協議を行いました。

TOPICS 05

まつもとゆきひろ  
松本行弘氏が本学の客員教授に!

オープンソース・ソフトウェア分野における、プログラミング言語Rubyの開発者として世界的に著名な松本行弘(まつもと ゆきひろ)氏については、平成20年7月から島根大学プロジェクト研究推進機構特定研究部門

辞令交付の様子

「産官学と開発コミュニティの連携による」オープンソース・ソフトウェアの安定化と

ビジネスモデルの構築に関する研究」(プロジェクトリーダー 野田哲夫教授)の有期雇用研究員として、本学研究者と共に「オープンソースの安定化・高度化、開発の生産性の計測」の研究に従事していただいています。

松本氏の研究における業績は顕著であり、また、共通教養科目の「Rubyプログラミング」「情報と地域」の授業で、今後、学生教育にも従事していただくことから、このたび、本学の客員教授として就任されました。任期は、平成21年4月1日〜平成22年3月31日までの1年間です。

TOPICS 06

久保田岳志准教授が  
平成20年度「石油学会奨励賞」を受賞



左から山本学長、久保田准教授、柴田副学長

総合理工学部の久保田岳志准教授が、このたび平成20年度の石油学会奨励賞(出光興産賞)を受賞され、7月2日(木)に学長室を訪れ、山本学長に受賞の報告をしました。

この奨励賞は、石油、天然ガスおよび石油化学に関連する分野において、独創的な業績を発表した若手の研究者または技術者に贈られるものです。久保田准教授は、XAFS(ザフス)と呼ばれる分析法を用いてCo<sub>2</sub>-Mo系水素化脱硫触媒の活性相構造を明らかにした研究等が評価され今回の受賞となりました。

TOPICS 07

木原淳一准教授が  
「日本農学進歩賞」を受賞



受賞の報告をする木原准教授(右)と山本学長(左)

歩賞を受賞され、11月25日に東京大学農学部弥生講堂にて授賞式および受賞者講演会が行われました。

この賞は、「人類と多様な生態系が永続的に共生するための基盤である農林水産業およびその関連産業の発展に資するために、農学の進歩に顕著な貢献をした者を顕彰する」もので、今年度は11名が受賞しました。受賞課題は、「植物病原系状菌の光応答機構に関する研究」で、光による植物保護技術の開発に向けた植物病原系状菌側からのアプローチとして、イネごま葉枯病菌の光応答機構を生態学的・分子生物学的に研究してきたこれまでの業績が評価され、今回の受賞となったものです。

生物資源科学部の木原淳一准教授が財団法人農学会より第8回日本農学進

TOPICS 08

「大学ホール」竣工！  
オープニングセレモニーを実施



学長・理事・監事によるテープカット

島根大学  
憲章に掲げ  
る目標を達  
成するため  
の一環とし  
て、学生の  
修学環境整  
備のための  
多目的ホー  
ルとして整  
備を進めていた大学ホールが完成し、  
10月1日(木)にオープニングセレモニー  
を実施しました。

このホールは教養講義室棟1号館旧  
100番教室を取り壊し、鉄骨鉄筋コ  
ンクリート1階建て(一部2階)延べ  
床面積830㎡、席数380席の施設

として新たに建設されました。  
なお、このホールの建設費等は島根  
大学支援基金(大学ホール整備事業)  
や目的積立金によりご支援いただいた  
ものです。

当日は、爽やかな秋晴れの中、山本  
学長の挨拶に始まり、引き続き山本学  
長、宅和理事、三宅理事、柴田理事、  
松本理事、山崎監事、宮脇監事による  
テープカットが行われ、出席した教職  
員一同と共に、大学ホールの完成を祝  
いました。セレモニー終了後、省エネ  
対策、環境アメニティ対策を施した新  
営建物の見学会もあり、可動式ステー  
ジャーなどの最新の視聴覚機器につい  
て説明が行われました。

TOPICS 09

島根大学旧奥谷宿舎(旧制松江高等学校外国人宿舎)  
竣工記念式典を挙げる



修復された旧奥谷宿舎

10月21日  
(水)に、島根  
大学旧奥谷  
宿舎(旧制  
松江高等学  
校外国人宿  
舎)の修復  
完成を祝  
し、記念式

典が行われました。

当日は、爽やかな秋晴れの中、山本  
学長の挨拶に始まり、続いて松浦正  
敬松江市長からお祝いの言葉をいただ

き、学外からの来賓者23名と共に完成  
を祝いました。

今後は旧制松江高校から現在までの  
島根大学の歴史や宿舎に暮らした先生  
方、島根大学に縁のある方々を顕彰す  
る展示や、小規模セミナー、研修会、  
公開講座などの開催、市民のみなさん  
や学生、留学生等による様々な催しも  
のなどに活用されます。

■開館日/原則として毎週土・日曜日、  
国民の祝日・振替休日

■開館時間/10:00~17:00

TOPICS 10

山陰と阪神を結ぶ  
医療人養成プログラム4大学FDを開催



小林大学病院支援室長による講演

9月6日  
(日)、松江市  
のホテル一  
畑におい  
て、文部科  
学省「大学  
病院連携型  
高度医療人  
養成推進事  
業」に伴う「山陰と阪神を結ぶ医療人  
養成プログラム」4大学合同FD(島  
根大学、神戸大学、鳥取大学、兵庫医  
科大学)が、主幹校である島根大学の  
担当で開催されました。

このFDには、文部科学省高等教育  
局医学教育課大学病院支援室の小林万

里子室長のほか、4大学からコーデ  
ィネーター、プログラム実施責任者など79  
名が出席しました。  
木下医学部長、小林病院長の挨拶に  
続き、小林大学病院支援室長による  
「大学病院連携高度医療人養成推進事  
業の概要」と題した講演があり、本事  
業の主眼・目的や今後この事業に期待  
するところなどの説明がありました。  
引き続きパネルディスカッションが  
行われ、島根大学の廣瀬コーディネ  
ーターの司会で、各大学の取り組み状況や  
この事業のメリット、デメリット、今  
後の課題及びこの事業に参加した若手  
医師からの報告など活発な意見交換が  
行われました。

TOPICS 11

学長と教育学部長に  
小学生から「ミニ門松」贈呈



島根大学学長(左)と高岡教育学部長(右)がミニ門松を掲げる

安来市  
島田交流  
センター  
の「わん  
ぱくクラ  
ブ」活動  
で児童た  
ちが作り  
た「ミニ  
門松」が、山本学長と高岡教育学部長  
に贈呈されました。

これは、島田交流センターの「わん  
ぱくクラブ」の活動に、教育学部が取  
り組む「1,000時間体験学修」の

基礎体験活動として教育学部の学生が  
参加し、活動を支援していることから、  
子どもたちの作品を島根大学に届けた  
いと申し出があったもので、このミニ  
門松作りにも5名の学生が参加してい  
ました。

当日は、島田交流センター館長と児  
童代表2名その他関係者が学長室を訪  
れ、児童代表から山本学長と高岡教育  
学部長に、それぞれ自分たちが製作し  
た「ミニ門松」が手渡されました。山  
本学長は「こんな立派なミニ門松が頂  
けてありがたい。学長室に飾りたい。」  
とお礼を述べました。

僕は中学校のころから陸上やってい  
ます、辰巳選手はいつ頃から陸上を  
されていて、始めたきっかけを教え  
てください。

私も陸上を始めたのは中学校から  
で、「きっかけは？」ってよく聞かれ  
るんですけど、大したことなくて申し  
訳ないんですけど、友達が陸上部に  
入ったからみたいな感じですね。ずつ  
と子供の時から走るのが好きだった  
し、校内ではやつぱり速かったので、  
きっかけと言えばきっかけですね。で  
も、中学校の時も高校に行ったら2度  
とやらないぞと思ったけど、何となく  
陸上部に入ってしまった。大学も  
陸上で入ったけど、ちよつと柔道とか  
やりたいなって思ったりしたことも  
あって……。結構柔道好きなんですよ。  
でも、卒業しても未だにやつてるから、  
そういう運命だったんでしょね。

—これまで陸上をしてきて、一番嬉し  
かったことは何ですか。

やつぱり大阪の世界陸上への出場を  
決めた時ですかね。色々時期的に大変  
だったので、前の所属先を3月末で辞  
めて、所属がない、お給料が出ないつ  
て状況で、所属先を探している状況の  
中で決めた日本代表だったんですね。  
その代わり、日本代表が決まるまで3  
カ月ぐらいなんですけど、ものすごく  
辛かったです。幸くて、「監督に恩返  
ししなきゃいけない」そんなことばっ  
かり考えてたら、もう何をやっている  
のかも分からなくなってきたそうだと  
す。だけど、自分に目標があったから  
何とか越えられたんですよ。その中で



# 辰巳悦加さんに 聞く

## アジア陸上●女子3000m障害優勝

今回、2009年11月のアジア陸上競技選手権大会において、  
日本人選手として初めて「女子3000メートル障害」で優勝した  
辰巳悦加選手を、母校である島根大学に招き、  
本学陸上競技部員にいろいろとアドバイスをしていただきました。

日本代表を決められたので、それはも  
うホントにすごく嬉しくて、恩返しが  
できたって思いました。嬉しいことに  
は苦しいことがつきものですから……。

地方大学の選手にとつて全カレで入  
賞、優勝したり、日本選手権で優勝し  
たりする人つてすごい雲の上のような  
存在がするでしょ。全カレに行った人  
とか分かるかもだけど、周りの選手が  
全部強く見えたりするわけで、でも、  
地方の大学から来ても、代表になるこ  
とができたんだって思った時、自信に  
もなつたし、逆にいえば何とでもなる  
んだなと思えました。

—陸上をしていると時々嫌になること  
があります、辰巳選手も嫌になるこ  
とがありますか。

生身の人間なので、当然実業団選手  
にとつても走るのがしんどかったり、  
時には上手くいかなくて面白くない時  
も多々あります。それは誰にでもある

ことだと思えます。ただ、学生と違つ  
て私たちは実業団の選手ですので、こ  
れによつて給料をもらつたり、仕事と  
してやつているので、当然それを表に  
出してチームの雰囲気に影響を与えた  
り、スタッフに対してやる気のない態  
度を出すことははつきり言つてできな  
いです。でも、それが全くないかつて  
いうのは全然ありません。そんな時は  
みんなそうだと思いますが、自分の好  
きなことをしてリラクセスします。無  
理に頑張りすぎても、それで上手くい  
くこともあるけど、上手くいかないこ  
とも非常に多いので、そこは臨機応変  
に力みすぎずに自分の思った通りに動  
いてもいいんじゃないかと思えます。

—世界選手権など外国人選手と競つ場  
に出場されていると思いますが、外  
国人選手との差を痛感したところ  
や、日本人が勝つていると感じたところ  
はどこがありますか。

そうですね。実際に世界陸上には1  
回出させてもらつて、この間はアジア  
選手権に出たんですけど、やはり明ら  
かに違うのはやつぱり体格差、それは  
見てのとおりだと思ふんですけど、特  
に私の障害の種目になるとかなり身長  
も大きくて、筋力もかなり、見るから  
にマッチョな選手もすごく多いのには  
やつぱりびっくりしました。そのへん  
でどうしても元々の差はあるかもしれ  
ないんですけど、でも、日本人選手が  
外国人選手に勝つているなど感じる  
ところは、気持ちの部分だと思いま  
す。なぜかと言うと、外国人選手は  
レースを途中で諦めることが結構多い  
んですよ。時々テレビを観てると、よ  
くあると思うんですけど、途中で抜け  
てる選手いますよね？倒れたとかでも  
ないのにレースを止めている選手を見  
たことないですか。そういう選手が外  
国人選手に多くて、でも日本人選手つ  
て何でも最後までゴールすることが美

大舞台での経験を生かし、  
さらなる飛躍を誓う。





辰巳選手のアドバイスを熱心に聞く陸上競技部員

学ってというか、最後まで諦めない気持ちを持つてというのがあるじゃないですか。そこがちょっと外国人選手と日本人選手の違うところかなって思います。ヨーロッパの試合に出た時のことですが、タイム順で行くと出場選手の中で自分のタイムが下から3番目くらいだったのに、前の選手がポロポロ諦めたり、止めたりで結局8位入賞したことがあるんですよ。そんなことも起るんだなっていうのがあったんで、やっぱりストイックな気持ちを持って取り組むってというのは日本人選手のかなり強いところだと思いました。

調子が悪くなつた時やモチベーションが下がった時に、どういった具体的な対策をされているのか教えてください。

私の場合、モチベーションが下がってきた時、部屋がだんだん散らかって

くるんですよ。テスト前とかに片づけとかしたくなる人いるでしょ？絶対。何かそんな感じで、部屋を片づけけないと生活がきつちりできないんですよ。モチベーションが下がるから部屋が散らかるのか、部屋が散らかるからそうなるのか、どっちが先かわからないんですけど、とりあえず先に部屋の片づけをします。部屋の片づけして、身の回りのものを片づけて、パソコン開いて計画を建てますね。メニュー組んでる人はすごく苦労されていると思うんですけど、やっぱり毎日毎日の細かい目標であるものも必要なんですけど、長期的な目標も大事じゃないですか。それってやっぱり結構時間とってゆくりじっくり考えないと、まとまらないんですよ、私の場合は。ある程度パソコンにメニューとか計画を入れてるんですけど、そういうふうじつくりと考える時間と環境を作って、先ず、生活を正しますね。片づけできてないとか、やらなきゃいけない事務作業がいっぱい残ってるけどそのままになってるとか、ハガキを出さなきゃいけないとか、ホント細かいことなんですけど、そういうものが全部片づくって自分の中で練習のことを考えなきゃいけないって頭が整理できるんですよ。けど、当然そういうんじゃないって、ただ単に気持ちに乗らないっていう時もあると思うんですけど、その時は時期にもよりますけど、今みたいな冬季の時期であればあんまり無理せず、やらなきゃいけない、やらなきゃいけないって思わなくてもいいんじゃないかなと思うんですね。気持ちが向



## 恩師から見た辰巳選手

島根大学陸上競技部顧問の齋藤先生に教え子の辰巳さんについて語っていただきました。

大学時代の辰巳さんは、目標をしっかり持って普段の練習をしており、常にステップアップしていました。その結果4年生の時に全カレの1500メートルで7位という成績を残したわけですが、地方の大学で非常に素晴らしい結果を出してくれたというふうに思っております。

彼女は、決して最後までレースを捨てないんですよ。最後までがんばるから良い結果が残せる。最初からトップで走って自分でレースを作るといふよりは、最後に頑張って抜き返して上位に入る。そういうレースが非常に多い。本当に最後の頑張りですね。それはもう誰にも負けないものを彼女は持っているなと思っております。

彼女は、周りからの雑音にも全然振り回されないような1本筋が通っているようなところがありますね。ちょっと男みたいな性格のところがありますから：（笑）。まあそういうものがあるから実業団で頑張っているのだなと思います。

国立大学出身の長距離選手というこ

とでお話しますと、現在の第一生命陸上部の山下監督（女性）は、鳥取大学教育学部出身で、91年世界選手権女子マラソンで銀メダルをとりました。彼女は、中学の教員をしていましたが、自分は実業団でやりたいということで、教員をやめて実業団の京セラに入りました。そういった人も国立大学出身には僅かながらいいますが、なかなかいない。鳥根大学出身で頑張っているというのは辰巳さんくらいじゃないかと思っております。地方大学から実業団で頑張っている選手がいるということは、やはり皆さんも誇りに思えるだろうと思いますし、そういうのを見習って頑張ってほしいなというふうに思っております。

鳥根大学陸上競技部出身者が、実業団で頑張っているということ、私自身非常に喜んでおりますし、鳥根大学としても大いに貢献してくれていると思っております。

最後にこれからの辰巳選手のご活躍をお祈りいたします。



かないってことは、身体が疲れてるって事なんで、向かない時は向かないんですよ。誰でもあってもどんなトップ選手でも。シーズン中に大事な試合が控えてる場合には、そんなことも言ってもらえないので、意欲が下がっても、それは口に出さない方がいいです。今疲れてるとか、モチベーションが上がらないとか口に出すと、余計にそうやっていくんですね。だから、やらなきゃいけない時には、自分を奮い立たせて口には出さないです。態度にも出さない。何とか自分でそれを乗り越えるしかない。時期によっては、無理に走ることを考えず、リラックスすればいいと思います。

—大きな大会にもたくさん出場されていると思います。やっぱり、緊張もされると思います。「緊張しても楽しく走ろう」とどこかにかけている事、



陸上競技部員と一緒に

**考えている事が何かありますか。**

そうですね。やっぱりある程度強くなっても「緊張してるんですか？」って言われる事もすごく多いし、私自身も自分よりもっと強い選手がホントに緊張してるのかなって思っちゃうんですけど、やっぱり何年たっても何回試合を走っても緊張はするもので、本当に正直に答えると、緊張とかプレッシャーにどう向き合ってるか行ってまだに課題なんです。自分が緊張に打ち勝ってるのか、それとも負けているのか、結果によって判断してしまいがちですけどね。大きな試合であっても、そんなに緊張しないこともあるでしょうし、何を背負ってレースに出るかで緊張の具合が変わってくるんですね。私は、日本選手権であれば、次の世界陸上に向けてという大きなものを背負っているの、やはり緊張するし、まあそういう時に本当にその雰囲気を楽しめることができたら本当に楽なんですけど、そうできない時もあるし、それは結構人それぞれだと思っんですね。どんなふうな考え方でいくのかって。

楽しめるために思うこと…実業団だと、なかなか楽しむ気持ちだけでは走れないんです。やっぱり会社これだけお世話になってるとか、結果を出さなければいけないという気持ちが強くなってきたりするので、楽しんで、という気持ちだけでは難しいですね。でも一番楽しめるのはやっぱり自分が練習を積めた時だと思います。この大会でこれぐらい走れるんじゃないかっていう自分に対する期待が持てる時にやっぱり楽しんでレースに出れるので、

どれだけ自分が自信をもった練習ができたかどうかで、楽しめるかどうかが決まってくると思うので、その時の気持ちというよりは、日ごろからいかに練習ができていくかだと思います。

—僕も3000メートル障害をやっているんですけど、3000メートル走のうって何かコツみたいなものがあるれば教えていただきたいのですが。

そうですね。日本代表になっていくけど、実はまだ始めて3年目なんです。よく三障のアドバイスをって言われるんですが、ちよつと困っちゃうんですけど。前日本記録保持者の男性選手に、三障のコツを教えてもらったんですけど、結構男女で違うみたいなんです。ね。やっぱり男性ほど女性は筋力がないので、水壕の跳び方とかが変わってくるので、一概にそうとは言えないんですけど、その方から聞いたところでは、三障というのはイーブンで走るのが一番タイムがベストを出しやすいらしいんですよ。最初に飛ばしてしま



**辰巳 悦加** (たつみ よしか)

1982年2月26日生まれ。鳥根県立松江北高等学校卒業。鳥根大学教育学部卒業。現在はデオデオ女子陸上部所属。

好きな食べ物:お菓子・コーヒー・焼肉。好きなスポーツ選手:イチロー。好きな芸能人:福山雅治。今一番欲しいもの:時間。学生生活で一番楽しかった思い出:部活の飲み会

- 2009年の主な成績 (3000メートル障害)
- 自己ベスト: 9分53秒87 (6月:日本歴代2位)
- 日本選手権: 2位 (9分58秒64)
- アジア選手権: 1位 (10分05秒94)

いがちなんですけど、割りときペースを刻んでイーブンで走れる時がほしい。ベストが出る時なんじゃないかなってその人はおっしゃってました。コツっていうかやっぱり普段の練習の工夫が必要だと思うんですよ。基本、ペース長距離でみんな一緒に練習してるでしょ?それだけじゃやっぱり足りないと思います。持久力・筋力・スピードと、とてもバランスの必要な種目になりますので、ある程度結果を出したいのであれば、長距離メニューだけでなく、多少距離が短くても筋力的な要素を取り入れた練習を、この冬季練習で取り組んでいったらいいと思います。

撮影当日は雪の交じる寒い日にも関わらず、辰巳選手は元気な姿で快く撮影に応じていただきました。今後の活躍を期待しております。鳥根大学は辰巳選手を応援します!

広報「しまだい」では、鳥根大学にゆかりのある、各界で活躍されている方々をご紹介します。

# いま、注目されています!

島根大学では、知的文化を継承し、創造的に発展させるとともに、大学が有する知的資産と知的創造力を活用した人材育成、学術研究活動を行っています。また、これらを通じて地域社会の発展と貢献につながる取り組みを行っています。

今回は、その一部についてご紹介いたします。

Eyes-01

## 「ナタデココ」を 歯科治療に応用する

島根大学医学部歯科口腔外科学講座 吉野 綾／近藤 誠／関根 浄治

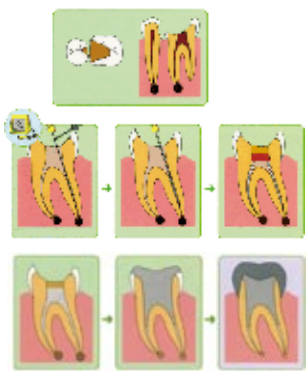
立教大学理学部化学科 田淵 眞理

島根大学総合理工学部材料プロセス工学科 中井 毅尚

島根大学医学部法医学講座 竹下 治男

### 現行の「根っこ」の治療」と その問題点

むし菌が大きくなると、いわゆる「根っこ」の治療が必要になります。大きなむし菌でもなるべく歯を抜かないで済むように、①歯の根っこ（歯根）の中の感染組織を取り除いて②消毒を繰り返し③再感染しないよう緊密に薬を充填するという治療です。歯根は顎の骨に埋まっているため直視できず、また



大きなむし菌には根っこの治療が必要

感染組織を除去し消毒薬を留置、交換を繰り返す

きれいになった根っこに最終的な薬を緊密に充填する

現行の歯科治療 (画像出典：日本歯科医師会)

ファイリピン由来のデザートとしてよく知られているナタデココですが、じつは酢酸菌の一種が作り出すセルロース「バクテリアルセルロース」の塊です。酢酸菌は簡単に取り除く事ができ、製品としてのナタデココは99%の水（十甘味料など）と1%のセルロースなどで構成されています。一般的な紙やティッシュなどの原料であるセルロースは草木から採れる植物由来のもので、これらと比較すると、ナタデココのセルロース繊維は植物性のものの数々数十倍太く、三次元の網目構造を成している点でも異なります。この

その形状はひとそれぞれで内部の構造はさらに複雑です。薬の充填方法にも様々な方法があり、病態により状況も異なってくるため、治療としては再現性が低く、歯科治療のなかでも困難で時間がかかるものひとつです。この現状を改善できないかと考え、わたしたちは治療の再現性を向上させ、安定して緊密な充填が可能となる歯科治療材として、ナタデココに着目しました。

### ナタデココとは

構造の違いから、同じセルロースでありながら様々な材料学的特長を有しており、すでにスピーカーや液晶画面など、広く工業応用されています。

### ナタデココの

### 歯科治療材としての可能性

セルロース3次元構造のナタデココは、条件次第では少し潰しても元に戻る性質を持っており、2次元方向で圧縮することで、戻るときの膨張方向をコントロールすることができるといえます。これを利用すれば、膨張する事で緊密性を確保しながら歯根の先からはみ出しにくいという、従来の根管充填材の欠点を克服した治療材が開発できるのではないかと考えています。

ナタデココは食用として普及している安全性の高い材料です。また植物性のセルロースはすでに歯科治療材として応用されており、歯科領域においてセルロース自体の安全性は補償されているという実績があります。これらの条件は、臨床応用を見据えた場合にとっても強みになると考えています。

具体的な臨床応用を見据え、現在鋭意研究中です。



ナタデココ (バクテリアルセルロース)

# 課外活動を ポイント化して評価

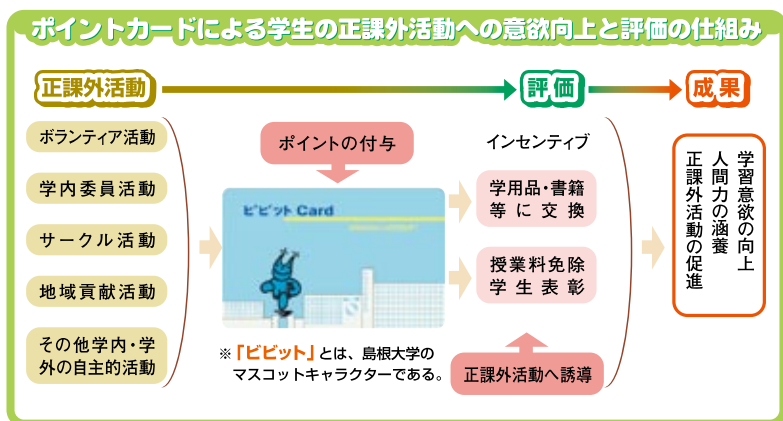
島根大学学生支援課 学生GP支援室

島根大学では、文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」で選定された「学生の自主的活動の評価と教育効果の向上」においてICカード（ビビットカード※）を使用したポイント制を平成20年度から導入しています。

学生の人的成長を促すことを目的とし、自主的な活動をポイントとして評価する取組みは全国で初めて導入したものです。

## ポイント制の仕組み

ポイント制の仕組みは、左図のとおりです。



## ボランティア活動等を ポイント化

ボランティア活動等の正課以外の活動を一層推進するため、ビビットカードによるポイント制度を平成20年度より導入しました。

このポイント制度は、活動の種類ごとに定められたポイントを学生に与え、これを書籍、文房具と交換でき、さらに授業料免除制度も設けました。

授業以外の活動にも積極的に目を向け、社会にいち早く順応できる人材を育てたいと願っています。

地域の皆様とともに「コミュニケーション能力」や「自立心」を育てることができればとの思いがあります。開始以後、一年半が過ぎましたが、学生は様々な活動を積極的に行うようになってきました。

この制度は、特にユニークな取組みとして他大学からも注目されています。

## 地域安全協力員・ 子ども安全支援員

### 116名を委嘱

ポイント制度を生かし、松江警察署との連携協力のもとに「地域安全協力

員」及び「子ども安全支援員」として、約116名の学生が松江警察署長より委嘱され、活動しています。

警察や松江市川津地区「セーフティカワツ」と協力して自転車の鍵かけキャンペーンや夜間パトロールなどを行っています。

また、7月18日には、川津地区の子どもたちと安全マップ作りを行うなど、子どもの安全を守る活動にも参加しました。

## 学生の声

●ポイント制度については、あまりボランティアの経験のない人も、やってみようかと考え活動に参加し、そこで繋がりをもつことや新たな視野を持つ機会も作れるので、良い試み



子どもたちと危険な個所などを調査



安全マップ作りを手伝う学生たち

だと思っています。（法文学部男子）  
●ポイント制度が始まってから、イベント等の掲示物や問い合わせがまとまり、活動を探しやすく、参加しやすくなった。（生物資源科学研究科男子）  
●サポート・スタッフをやってみて思ったことは、たくさんの人と接することができる素敵な活動であるということです。（教育学部女子）

## お知らせ

学生のボランティアを希望される方は、左記の窓口へお申し出ください。なお、ご要望に添えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

活動の詳細は、ホームページ (<http://shheng2.jn.shimane-u.ac.jp>) でご覧いただけます。

### ボランティアの受付窓口

島根大学学生支援課 学生GP支援室  
松江市西川津町1060  
TEL 0852-3216054  
E-mail: shheng@jn.shimane-u.ac.jp

※「ビビット」とは、島根大学のマスコットキャラクターの愛称です。

附属図書館では、附属図書館研究開発室が中心となってデジタル・アーカイブを構築し公開しています。このデジタル・アーカイブは、学内外の歴史的・学術的な貴重資料や地域資料などをデジタル画像化して収集、蓄積・保存し、大学や地域社会における調査、研究、教育活動のために役立ててもらうことを目指すものです。

## 大学や地域の貴重資料の利用促進

本学のデジタル・アーカイブは、本学が所蔵する文書や古籍などの貴重資料だけでなく、山陰地域の図書館などの機関や個人が所蔵する文書や古籍などもデジタル画像化してアーカイブに搭載しており、このことは本学のデジタル・アーカイブの大きな特徴となっています。山陰地域にはたくさん文化遺産があるのですが、博物館などの展示施設で展示されるものは、なかなか一般の人の目に触れる機会がありません。ましてや実際に文書や古籍などの資料を手にとって読み



デジタル・アーカイブのトップページ  
http://www.lib.shimane-u.ac.jp/0/collection/da/da.asp

# デジタル・アーカイブの公開

Eyes-03

図書情報課 昌子 喜信



デジタル・アーカイブのコンテンツ  
[元禄出雲国絵図] (鳥根大学附属図書館所蔵)

込んでみることで専門の研究者でなければなかなかできることではありません。インターネットのWebサイト上に公開されたデジタル・アーカイブでは、誰でも手軽に大学や地域の貴重資料を見ることが出来ます。大きなサイズの古地図や絵図なども細部まで拡大して表示できるため、実物を使う場合よりも調査しやすい場合もあります。大学における研究や教育に活用できるだけでなく、学校の授業の教材として、また市民の皆様が生涯学習や研究の素材として広く活用していただくことができます。

## 初期調査・研究の支援

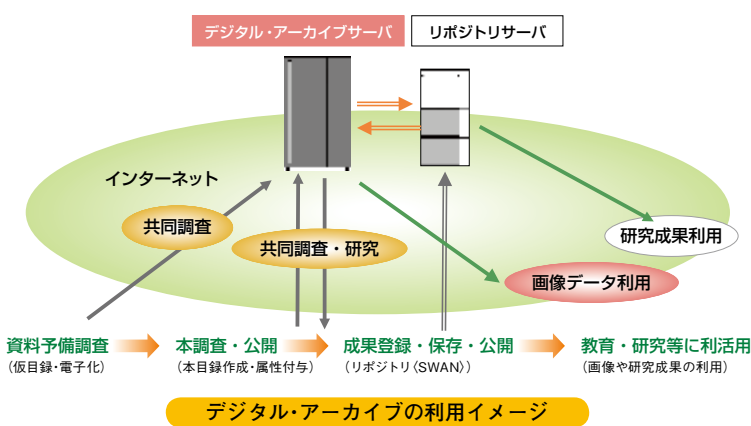
このような地域資料の多くは、本学

の研究プロジェクトや教員の研究過程で掘りおこされた地域の古籍籍や文書です。附属図書館は、研究プロジェクトや教員と連携することにより、これらの資料をデジタル・アーカイブに搭載します。デジタル・アーカイブに搭載された資料は、資料によっては直ちに一般に公開せず、まず大学の研究者によって詳細な目録が作成され、また資料の内容が調査・研究されます。調査・研究が一段落すると、一般に公開可能な資料から逐次、学外に公開されます。このように、本学のデジタル・アーカイブは、資料の初期調査や初期段階の研究を支援することも大きな特徴の一つです。このことは、デジタル・アーカイブに搭載されたコンテンツの性格や状態により、利用ステータス（認証利用、館内利用、学内公開、学外公開）をコントロールすることにより実現しています。また、実物の資料であれば、一人の人が占有すると他の人は見ることができませんが、デジタル・アーカイブの資料ならば、複数の人が同時に同じ資料を共同で調査・研究することもできます。

## 権利処理

地域の資料をデジタル・アーカイブに搭載して利用するにあたっては、資料の所蔵者との間でデジタル画像化とその利用についての覚書を取り交わしています。内容は、デジタル画像化の権利、デジタル・アーカイブへのコンテンツの登録と送信、二次的な利用、公開範囲、複製方法などであり、覚書の内容に従った適正な利用を行います。

デジタル・アーカイブを利用して、大学や地域の貴重な資料を研究や教育に、また生涯学習や学校の授業等には非ご活用いただきたいと思います。





大学・高専協議会ネットワーク



島根県図書館横断検索

公共図書館ネットワーク



物流ネットワークの概念図

物流ネットワークの概念図

平成20年11月からは、島根県立図書館による県内全域を対象とした物流ネットワークが構築され、大学・高専協議会の物流ネットワークと県内公共図書館の物流ネットワークが相互に接続されました。これにより、大学や高専の図書館が持つ図書を物流システムを介して公共図書館の利用者へ提供できるようになるとともに、大学や高専の学生や教職員は、県内の公共図書館の図書を物流システムを利用して自分の図書館で借りることができるようになりました。

大学や高専の学部・学科構成を反映した専門分野の図書と公共図書館がもつ豊富な文芸書や郷土資料などが補い合って、双方の利用者の利便性が格段に向上しました。



島根県図書館横断検索システム (島根県立図書館)  
[http://mets.elib.gprime.jp/libmeta\\_shimane/index.php](http://mets.elib.gprime.jp/libmeta_shimane/index.php)

探したい図書のキーワードを入力して、検索ボタンを押すと県内の大学・高専図書館や公共図書館の図書の所蔵状況を一度に表示することができます。図書館によっては貸出ができない資料がありますが、お目当ての図書が見つかったら、最寄りの図書館のカウンターを通じてお申込みください。

物流ネットワークによる  
図書の提供

このような図書館間の図書の相互貸借を実現するためには、物流ネットワークのバックボーンに他に、各図書館の蔵書検索システム(OPAC)を横断的に検索するためのもう一つの仕組みが必要でした。その仕組みが島根県図書館横断検索システムです。長い間、本学附属図書館がこの仕組みを提供してきましたが、平成21年10月からは島根県立図書館が新たな横断検索システムを提供しています。現在、このシステムに参加している図書館は県内の21館ですが、これから徐々に参加館が増えていくものと思われます。

図書館情報 昌子 喜信

図書館間の物流ネットワークによる地域の図書館への図書の提供

Eyes-04

横断検索システム

附属図書館は、県内の公共図書館(島根県立図書館、松江市立図書館、出雲市立図書館)と相互協力協定を結び、物流システムを使った図書館資料の相互利用や共同展示会・講演会などを開催するなど地域の市民の皆様へ大学図書館が持つ学術資料を提供してきました。また、県内の2大学(5キャンパス)と高等専門学校合わせて6つの図書館による島根県大学・高等専門学校図書館協議会を設立し、物流システムによる図書館資料の相互利用や職員研修の共同開催などをしてきました。

# 附属学校園

## 第2回

### 幼小中一貫教育研究

#### 発表協議会を開催

島根大学教育学部附属学校園長 宮本 弘和



合同集会で一緒に折り鶴を折っている子どもたち



合同集会でゲームを楽しんでいる子どもたち

島根大学教育学部附属学校園では、教育学部が学校教育教員養成に特化した専門職養成学部へ改組したことに伴い、21世紀に生きる子どもたちの教育や教員養成のための教育実習を行うにふさわしい新たな学校園づくりの検討をはじめました。

そして、附属学校園の特質や使命、全国や地域の教育の実情や教育改革の動向など様々な要因を勘案し、先進的な教育実践学校にふさわしい中期計画の一つとして「幼小中一貫教育に関する実践的な教育研究活動を推進する」ことを策定しました。その具体的な取組みは、平成16年度から開始し現在に至っています。

その推進にあたっては、附属学校部長職、附属学校主事職を設置し、学部との連携を図るとともに、管理運営面では、附属学校園としての専任校長を配置するなど、一貫教育体制の実現に向けて体制づくりを行いました。同時に、少人数学級の教育効果に着目し、

少人数の学級編成（幼稚園20人、小学校30人、中学校35人）による少人数教育への転換を図りました。

本校園の一貫教育は、幼稚園から中学校（幼稚園2年、小学校6年、中学校3年）までの一貫教育体制であり、4歳児から小学校2年の4年を初等部前期、小学校3年～5年までの3年を初等部後期、小学校6年から中学校3年までの4年を中等部として、11年間の子ども達の発達段階と学びの連続性をふまえ、育てたい子どもの姿の達成をめざして教育活動を展開しています。

平成21年11月20日には、2回の「一貫教育を語る会」と平成20年度の「幼小中一貫教育研究発表協議会」を経て、「第2回幼小中一貫教育研究発表協議会」を開催しました。幼稚園・小学校・中学校合わせて17の保育・授業公開、保育・授業分科会、実践発表を公開し、本学校園の成果を公表しました。

今、学校教育には確かな学力と豊かな心の育成が求められています。本学



神山貴弥氏による研究発表協議会での講演



公開授業で発表する児童

校園の研究実践をさらに深化・発展させることによって、そうした期待に応えるとともに地域の教育に貢献できるものと考えます。



教員免許更新講習で行った宇宙教育の様子

平成20年10月末に教育学部は宇宙航空研究開発機構(JAXA)と教育連携協定を締結しました。協定締結後の初年度となった平成21年度は、講師やオブザーバーとしてJAXAからのべ26人の研究者及び専門職員が派遣されました。

協定に基づき、教員養成課程科目のひとつである総合演習の一部門として、宇宙教育に特化した講義科目を設置しました。この科目では、教師を目指す学生に宇宙教育の理念をつたえ、その実践に向けた指導案や教材の開発をJAXAと協同しておこないました。さらに、この科目を教育学部の特色である1000時間体験学修と連動させ、自らが宇宙を用いた指導案を立てるだけではなく、その実践をおして成果と課題を確認することに取り組みました。

## Eyes-06

# 宇宙を通じた教育

教育学部 学校教育課程 初等教育開発講座 准教授 百合田真樹人

一例をあげると、国際宇宙ステーションで生活をする多国籍の宇宙飛行士の映像を見ることから、異なった価値観を持つ多様な人々が平和的に共存するために必要な条件を考えることを目的とした道徳教育に取り組む学生がいました。この学生は、道徳的感覚を外的に与えるのではなく、事例を通して道徳的感覚を作り上げる経験を通して、道徳教育に新しい視点を入れる取り組みを実践しました。

また、履修生のなかから4人、そして来年度から島根県・鳥取県で教師となる2人の学生が、11月末に宇宙教育指導者研修を修了し、宇宙教育リーダーとしてJAXAに登録されました。

附属学校園では児童・生徒とその保護者を対象に宇宙をテーマにしたサイエンスアカデミーを開催し、今年度は4月〜12月までにすでに5回開催しました。JAXAから宇宙生物学やロケット工学などの研究者が派遣され、生物学や宇宙開発、宇宙での生活などについて学びました。さらに、宇宙教育の理念に基づき、中国古典の世界がどのように地球と宇宙を捉えていたか、宇宙はどのようなメロディーを啓発したか、そして太陽は私たちの時間

の感覚にどう影響したかなど、宇宙への好奇心を入り口に、より知的な好奇心へと誘導する教育の実践をおこないました。回を重ねるごとに、多くの子供達と父兄の方々の参加が増え、複数の学校の先生にも参加いただけるようになりました。

平成21年度に本格施行になった教員免許更新制度では、宇宙を入り口にして好奇心を育む教育実践を目的とした免許更新講習も行いました。JAXAで観測的な宇宙科学研究に取り組み、電波天文衛星「はるか」のプロジェクトをすすめた平林先生と、現宇宙教育センター長の中村先生を講師に、宇宙



サイエンスアカデミーの様子



を素材にして授業を組み立てる意義や方法について学びました。受講者は理科教師に限らず、音楽や英語、養護学校の先生や盲学校の先生などと多岐多分野にわたり、県内はもとより、中国地方各県、そして遠くは高知県からもお越しになりました。

近年、理科離れが進んでいるといわれています。しかしながら、教育環境をめぐる様々な問題を見ると、「理科離れ」は表面的な現象に過ぎないのであるように感じられます。「理科離れ」や「理数離れ」の背景には、「知的関心からの乖離」といった、より深刻な課題があるのではないのでしょうか。そしてそこからは、学びへの焦燥感が感じられます。

教育学部がJAXAと協同して宇宙教育を推進する意義は、学びへの焦燥感を排除し、学ぶことに喜びを感じさせる好奇心を持ち、好奇心に火をつけることの出来る人材を教師として送り出すことにあります。その背景には、未来をみすえ、現在に対して積極的に働きかける視点をもった人材を教師として送り出し、私たちが取り巻く社会の変化に深い関心と洞察をもつ人材の育成を担って欲しいという願いがあります。

限られたスペースですべてをご紹介出来ないことが残念ですが、ホームページなどでご案内をしておりますので、ぜひ御一見ください。また御関心をお持ちいただけましたら、資料等をご用意しますので、いつでもご連絡ください。

# 島根大学における 地域貢献および地域医療への 貢献について

島根大学では、「人とともに 地域とともに」を理念として、さまざまな取り組みを行っています。ここでは、地域貢献・地域医療貢献の一部をご紹介します。

## 【自治体等との連携】

島根大学は、各自治体・機関とパートナーシップを確立し、交互の交流・連携により地域社会の発展や人材育成に寄与する等地域社会に貢献することを目指し連携協定を結んでいます。

### 【協定の状況】

自治体／島根県・雲南市・松江市  
鳥取県日南町・邑南町

国／国土交通省中国地方整備局

企業／山陰合同銀行グループ

島根県とは連携協定に関する覚書により、連携推進連絡協議会を設置し、定期的に開催する協議会において連携状況、今後の連携について協議を行っており、連携事業数は年々増加しています。

### 【主な連携事業数】

17年度／41  
18年度／60（内新規21）  
19年度／52（内新規6）  
20年度／57（内新規8）  
21年度／63（内新規11）

### 【主な事業】

●教育学部と島根県教育委員会及び鳥取県教育委員会との連携協力

教育学部では、島根県教育委員会及び鳥取県教育委員会とそれぞれ連携協力に関する協定を締結し、教員の養成・採用及び教員研修に関する事項や学校教育上の諸課題などについて協議しています。

●教育学部と市町村の教育委員会との連携協力

教育学部では、県教育委員会以外にも島根県（松江市・出雲市他10市町）及び鳥取県（米子市・境港市他3町）の市町村教育委員会と連携に関する協定を締結し、連携協力体制を整え、研修会等への講師派遣等を行っているほか、学生の実習等でも協力しています。

●学生の1000時間体験学修活動に係る地域との連携協力

1000時間体験学修活動の基礎体験活動として、学校、公民館、図書館、博物館など地域からの要請に対して、学生が参加し、支援活動を行っています。また、鳥取県教育委員会の学生ボランティア推進活動にも参加し、補助活動を行っています。

### 〈参考〉平成20年度実績

応募事業所数／219件  
応募活動数／414件

学生参加活動数／282件

参加学生延べ人数／1,625人

●島根県消費者活動推進事業「消費者のための法教育と巡回法律相談」

島根県消費者活動推進事業として、本学実務家教員（弁護士）、研究者教員及び法科大学院生が島根県内の市町村へ出向き、「消費者のための法教育と巡回法律相談」を実施し、消費者被害の未然の防止に必要な法教育を出席授業として行うとともに、消費者被害に関する相談も含め市民生活全般に関する無料法律相談を行っています。

また、開催地の商工会議所などの経済団体とも連携協力し、消費者に最も近い地元事業者の消費者教育も行っています。

●地域法律相談センター

平成17年4月に「地域法律相談センター」を設置し、島根県及び鳥取県の実地住民からの法律相談に法科大学院生が陪席のもと、実務家教員（弁護士）が相談にのり、相談依頼者との間で法律事例をめぐるコミュニケーションの方法を実践させていることで臨床的な法律養成教育を実践しています。

平成19年8月には、その成果をさら

に発展させるため、弁護士法人山陰リーガルクリニクと連携協定を締結し、授業科目「リーガルクリニク」及び法曹養成教育のさらなる高度化を目指した教育を行ってきており、法曹過疎に悩む地域住民の要請に答えています。

●島根ユビキタスプロジェクト

「島根ユビキタスプロジェクト」は、島根県内外の「産」「学」「公」「民」が集結し、地域における地理的及び自然的特性、文化的営みの所産並びに多様な人材の創造力を引き出すとともに、国際的に優位にあるユビキタスネットワーク技術等を活用し、世界最先端のサービスの開発、実証実験等を実施していくプロジェクトです。

●オープンソース・ソフトウェアの安定化とビジネスモデルの構築に関する研究

オープンソース・ソフトウェアの開発スタイルに関して技術・工学的側面と社会・経済的側面から理工系と社会科学系の研究者による融合した包括的研究を行っており、また地域の情報産業・行政機関・オープンソースコミュニティとの産官学連携と、国内外の研究機関との連携によって進めている点が特色です。

## 地域貢献



# SSHによる連携事業

●松江東高等学校との連携（平成15年度）平成20年度実績

理工学学部訪問／1年生237人が訪問し、2学部の教員及び大学院生による講義・実習を体験しました。  
アドバンストサイエンス／3年生S

Sクラス所属生徒を対象に、大学教員が高校に出向き、数理科学、物質化学、生命科学、自然環境科学の講義を行い、その後大学に生徒が訪問し実験・実習を行いました。

サイエンスイングリッシュⅡ／2年生Sクラス所属生徒を対象に、本学の留学生在が高校に出向き、英語による理科実験に関する基礎英語学習及び理科実験を行いました。

SSH運営指導委員会／運営指導委員会に委員として企画・財務担当理事

他2名が出席し、授業参観及び平成20年度事業計画等について協議しました。

●益田高等学校との連携（平成19年度）平成20年度実績

地域巡検／1年生32人が産学連携センター地域医学共同研究部門を訪問し、教員による講義及び施設の見学を行いました。

大学実習／2年生4人が2泊3日で医学部のゼミに参加しました。

SSH運営指導委員会／運営指導委員会に委員として医学部教授が出席し、生徒プレゼンテーション及び平成20年度事業計画等について協議しました。

## 受託研究

【主な事業経費】

文部科学省／地域科学技術振興事業委託事業（都市エリア産学官連携促進事業）

進事業）

JST／重点地域研究開発推進プログラム

農林水産省／プロジェクト委託事業  
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業委託事業

環境省／環境技術開発等推進費  
など

※資料①②を参照

## 共同研究

共同研究は、近年国内景気低迷の影響もあり、少し減少していますが、島根県内の企業との共同研究拡大に向け、積極的に推進しています。

これまでの共同研究の成果として、島根県内の企業と本学との共同研究により商品が開発され販売されており、また、開発された新事業により、企業

2社が、社団法人日本ニュービジネス協議会連合会のニッポン新事業創出大賞アントレプレナー部門優秀賞及び特別賞を受賞しています。

※資料③④を参照

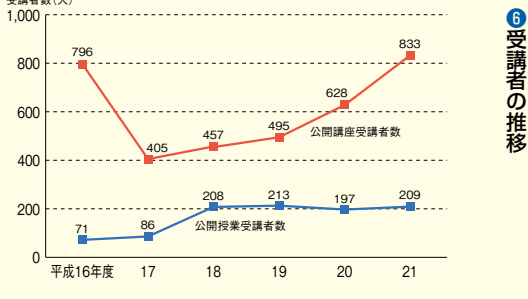
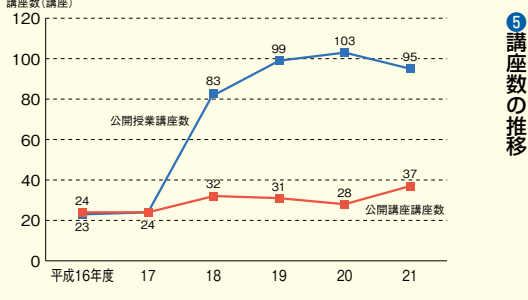
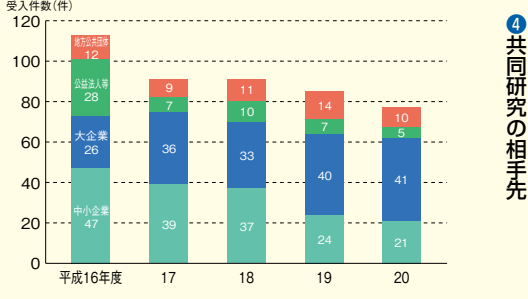
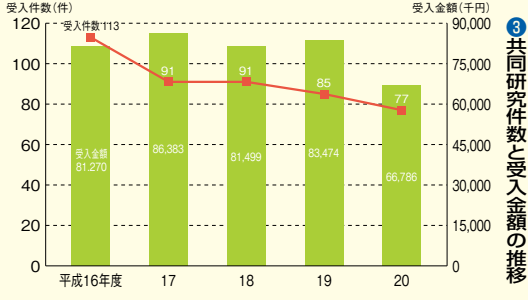
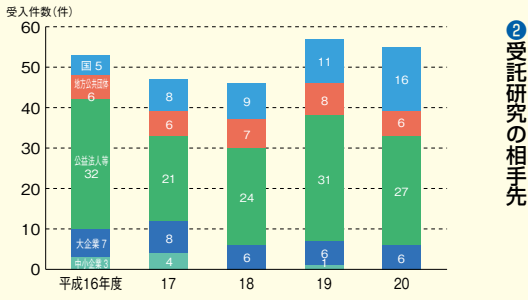
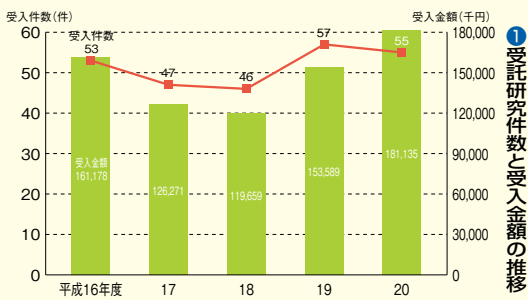
## 公開講座等

※資料⑤⑥を参照

## 審議会委員等

本学では、地方自治体等からの要請により、島根県教育課程審議会、島根県消費者生活審議会、島根県景観審議会などの委員を始め、非常勤講師、アドバイザーなど多くの教員が事業に協力しています。

## 資料



# 地域医療貢献

## 腫瘍センターに「腫瘍臨床研究部門」(出雲市)を設置

平成20年2月1日から出雲市の寄附(5年間)により、医学部附属病院腫瘍センター内に腫瘍臨床研究部門を設置し、従来の腫瘍診療部門と併せ2部門体制にすると共に関連診療科間の横断的な支援体制を整備して、集学的治療の構築を図りました。

腫瘍臨床研究部門は、(1)市民を対象とした遺伝子と生活習慣に着目したがん分布の分析、(2)効率的な検診体制や早期診断法の確立、(3)臨床治療や治療薬の研究開発を目的に順調に推移して

います。検診から治療までの一貫した医療の流れを「出雲モデル」として構築し、研究成果を市民の皆様へ還元し、全国への配信を図ることを最終目標にしています。

このたび、(財)島根難病研究所の「がん対策募金」で集まった寄附金を県内6カ所の「がん診療連携拠点病院」等に配分され、本院には2億円の配分が決定しました。

本院病棟再開発計画では、9階建ての病棟を増設(平成23年6月完成予定)し、8階フロアを腫瘍センターとしますが、集学的がん治療のための医療機器の整備に寄附金を充てることとしています。

## 医学部附属病院敷地内に救急患者搬送用ヘリポートおよび立体駐車場(地域防災拠点)を整備

●救急患者搬送のためのヘリポートを整備

医学部附属病院において、島根県西部など遠距離地の救急患者さんをいち早く搬送し、適切な診療を行うことができるよう、病棟南側に救急搬送用のヘリコプターが離着陸できるヘリポートを整備しました。

専用ヘリポートの整備を受け、救急搬送の時間が大幅に短縮され、救命率アップが期待されます。

今後は、防災ヘリへの専門医の搭乗体制、及び病院内への搬送、受入れ体

制を整えるとともに、島根県防災航空隊、各消防署、各地域病院等との連携を図り、地域の医療に貢献します。

## ●立体駐車場(地域防災拠点)整備

医学部附属病院に、駐車台数の収容力アップを図るとともに、大規模災害時には地域防災拠点および被災者の避難場所とし、病院で傷病者を収容できない事態を想定して、応急措置や診療の優先順位を決めるトリアージ等、診療可能な防災施設兼用の立体駐車場(鉄骨2階建て3層構造…458台収容)を整備しました。

駐車場外周に風雨を防ぐためのシートを張る仕掛けや電源、給水設備を配備し人工呼吸器などの医療機器の使用を可能にするともに、環境にやさしい電気自動車充電対応の電源も一部設置しました。

また、2階、3階からは渡り廊下を通りエレベーター(スルー型…通り抜け)を使用することで車イスの患者さ



んも病院玄関へ段差なくスムーズなアプローチが可能となりました。さらに、一部に「思いやり駐車場」を設置しています。

## メディア等を通じての住民への健康・医療の啓蒙活動

### ●いきいき健康講座「まめなかくらぶ」

平成13年から県民へ健康に対する啓蒙と本院の最新の診療内容を広く紹介し理解を得る目的で出雲ケーブルビジョンと共同で健康番組「まめなかくらぶ」の制作・放映を行っています。医学部の教授等による毎日の健康に役立つ情報番組であり、アナウンサーと対談

方式で普段の生活の注意点や体の異変と病気との係わりなどについてわかりやすく説明しています。



内科学講座(内科学第二) 木下教授(右)

# 平成21年度前期「学生表彰」を実施

平成21年度前期の学生表彰を12月1日に松江キャンパスで、12月8日には出雲キャンパスで実施しました。

表彰者は次のとおりです。

■**学術研究において、特に顕著な業績を挙げたと認められる者**  
第22回安藤博記念学術奨学賞受賞  
(歴代受賞者で最年少)

上田 貴史(総合理工学研究科 物質科学専攻博士前期課程2年)

日本行動計量学会岡山支部地域部会第30回研究会・第130回岡山統計研究会において講演発表、優秀賞受賞  
研究発表題目…経験リスク最小化に基づくパターン認識  
玉谷 充(総合理工学研究科数理・情報システム学専攻 博士前期課程1年)

■**課外活動において、特に優秀な成績を収め、課外活動の振興に功績があったと認められる者又は団体**  
(弓道部)

第53回西日本学生弓道選手権大会

●女子個人の部優勝  
中尾 美里

(法文学部法経学科2年)  
(古武道サークル拳雲塾)(個人)  
第5回居合道国際大会

●初段の部優勝  
桑原 亮友  
(法文学部法経学科3年)

(医学部ソフトテニス部)

第43回全日本医科学生体育大会  
王座決定戦

●男子団体準優勝

第61回西日本医科学生総合体育大会

●男子団体準優勝

中西 宣太(医学部医学科6年)

蔵垣内 敬(医学部医学科5年)

辻前 正弘(医学部医学科5年)

海野 健斗(医学部医学科4年)

佐藤 陽隆(医学部医学科4年)

杉原 一暢(医学部医学科4年)

高橋 悠(医学部医学科4年)

内田 有紀(医学部医学科3年)

金井 克樹(医学部医学科3年)

竹村 圭祐(医学部医学科2年)

第43回全日本医科学生体育大会  
王座決定戦

●女子団体優勝

第61回西日本医科学生総合体育大会

●女子団体第3位

坂本有理恵(医学部医学科5年)

菅田 真由(医学部医学科5年)

原本 理恵(医学部医学科5年)

佐々木裕美(医学部医学科4年)

佐久間亜季(医学部医学科4年)

※個人入賞もあり

前木奈津美(医学部医学科1年)

※個人入賞もあり

第61回西日本医科学生総合体育大会

●女子個人戦(ヘア)優勝

第43回全日本医科学生体育大会

王座決定戦

●女子個人戦(ヘア)第3位

佐久間亜季(医学部医学科4年)

※団体入賞もあり

前木奈津美(医学部医学科1年)

※個人入賞もあり

(医学部陸上競技部)

第61回西日本医科学生総合体育大会

●女子トラックの部 第3位

遠渡 貴子(医学部医学科5年)

舟本 有里(医学部医学科6年)

※個人入賞及び他団体入賞もあり

荒木 真理(医学部医学科5年)

※個人入賞及び他団体入賞もあり

野村 晃子(医学部医学科4年)

※他団体入賞もあり

門脇 円(医学部医学科3年)

※他団体入賞もあり

古川 詩乃(医学部医学科2年)

※他団体入賞もあり

第61回西日本医科学生総合体育大会

●女子フィールドの部 第2位

土石川佳世(医学部医学科4年)

古川 詩乃(医学部医学科2年)

※他団体入賞もあり

向田 千夏(医学部医学科3年)

※個人入賞もあり

第61回西日本医科学生総合体育大会

●女子4×400mリレー 第2位

野村 晃子(医学部医学科4年)

※他団体入賞もあり

門脇 円(医学部医学科3年)

※他団体入賞もあり

舟本 有里(医学部医学科6年)

※個人入賞及び他団体入賞もあり

荒木 真理(医学部医学科5年)

※個人入賞もあり

第61回西日本医科学生総合体育大会

●女子3000メートル 第3位

舟本 有里(医学部医学科6年)

※他団体入賞もあり

第61回西日本医科学生総合体育大会

●女子1500メートル 第2位

荒木 真理(医学部医学科5年)

※個人入賞もあり

第61回西日本医科学生総合体育大会

●女子最優秀選手賞

●女子ハンマー投げ 第1位

●女子円盤投げ 第2位

向田 千夏(医学部医学科3年)

※個人入賞もあり

(医学部水泳部)

第61回西日本医科学生総合体育大会

●男子400メートル自由形 第1位

●男子800メートル自由形 第1位

●男子1000メートル自由形 第1位

●男子200メートル個人メドレー 第3位

●男子100メートルバタフライ 第1位

●男子200メートル個人メドレー 第3位

植 敦士(医学部医学科1年)

第8回西日本コメディカル学生水泳競技大会

●女子100メートル平泳ぎ 第2位

●女子200メートル個人メドレー 第3位

竹森 公美(医学部看護学科1年)

■**社会活動等において、特に顕著な功績を残し、社会的に高い評価を受けたと認められる者又は団体**

あしなが募金事務局島根県代表及び日本赤十字社におけるボランティア活動  
浅沼 佳宏

(法文学部法経学科3年)  
人命救助に係る「出雲市消防本部 消防長表彰」受賞  
武田 真紀

(医学部看護学科2年)



写真上：松江キャンパス表彰者 写真下：出雲キャンパス表彰者

## 高いチーム力を発揮

### バドミントン部



僕たちバドミントン部は現在男子20名、女子7名の計27名で活動しています。今年度は、男子は即戦力として通用する1回生を迎え、団体戦で中・四国学生バドミントンリーグ戦大会1部昇格や、中国五大学学生競技大会優勝、中国・四国・九州学生バドミントン選手権大会3位入賞など特に団体戦で良い成績を残せた一年だったと思います。女子も中・四国学生バドミントンリーグ戦大会3部優勝、中国五大学学生競技大会準優勝など少人数ながら高いチーム力を発揮しました。12月、3月は大会のない期間ですが、春から秋にかけて六つくらい学生大会が開催されます。そのため少し忙しい面もありますが、大会の他にもいろいろなイベントがあつて、とても楽しい学生生活が送れます。来年度の目標として、男子は「団体インカレ出場」、女子は「全ての大会において前年度の成績を上回る」というものを設定しました。女子は4回生の方2名が卒業され、人数が更に減ってしまうので新しい女子部員が来てくれればいいなと思っています。部内には大学からバドミントンを始めた初心者もいます。経験を問わず、バドミントンをやりたい方、同級生や先輩方と深い関わりを持ちたい方、島根大学バドミントン部を自分が強くしてやろうという方は是非第二体育館に足を運んでみてください。



僕たちバドミントン部は現在男子20名、女子7名の計27名で活動しています。今年度は、男子は即戦力として通用する1回生を迎え、団体戦で中・四国学生バドミントンリーグ戦大会1部昇格や、中国五大学学生競技大会優勝、中国・四国・九州学生バドミントン選手権大会3位入賞など特に団体戦で良い成績を残せた一年だったと思います。女子も中・四国学生バドミントンリーグ戦大会3部優勝、中国五大学学生競技大会準優勝など少人数ながら高いチーム力を発揮しました。12月、3月は大会のない期間ですが、春から秋にかけて六つくらい学生大会が開催されます。そのため少し忙しい面もありますが、大会の他にもいろいろなイベントがあつて、とても楽しい学生生活が送れます。来年度の目標として、男子は「団体インカレ出場」、女子は「全ての大会において前年度の成績を上回る」というものを設定しました。女子は4回生の方2名が卒業され、人数が更に減ってしまうので新しい女子部員が来てくれればいいなと思っています。部内には大学からバドミントンを始めた初心者もいます。経験を問わず、バドミントンをやりたい方、同級生や先輩方と深い関わりを持ちたい方、島根大学バドミントン部を自分が強くしてやろうという方は是非第二体育館に足を運んでみてください。

僕たちバドミントン部は現在男子20名、女子7名の計27名で活動しています。今年度は、男子は即戦力として通用する1回生を迎え、団体戦で中・四国学生バドミントンリーグ戦大会1部昇格や、中国五大学学生競技大会優勝、中国・四国・九州学生バドミントン選手権大会3位入賞など特に団体戦で良い成績を残せた一年だったと思います。女子も中・四国学生バドミントンリーグ戦大会3部優勝、中国五大学学生競技大会準優勝など少人数ながら高いチーム力を発揮しました。12月、3月は大会のない期間ですが、春から秋にかけて六つくらい学生大会が開催されます。そのため少し忙しい面もありますが、大会の他にもいろいろなイベントがあつて、とても楽しい学生生活が送れます。来年度の目標として、男子は「団体インカレ出場」、女子は「全ての大会において前年度の成績を上回る」というものを設定しました。女子は4回生の方2名が卒業され、人数が更に減ってしまうので新しい女子部員が来てくれればいいなと思っています。部内には大学からバドミントンを始めた初心者もいます。経験を問わず、バドミントンをやりたい方、同級生や先輩方と深い関わりを持ちたい方、島根大学バドミントン部を自分が強くしてやろうという方は是非第二体育館に足を運んでみてください。

僕たちバドミントン部は現在男子20名、女子7名の計27名で活動しています。今年度は、男子は即戦力として通用する1回生を迎え、団体戦で中・四国学生バドミントンリーグ戦大会1部昇格や、中国五大学学生競技大会優勝、中国・四国・九州学生バドミントン選手権大会3位入賞など特に団体戦で良い成績を残せた一年だったと思います。女子も中・四国学生バドミントンリーグ戦大会3部優勝、中国五大学学生競技大会準優勝など少人数ながら高いチーム力を発揮しました。12月、3月は大会のない期間ですが、春から秋にかけて六つくらい学生大会が開催されます。そのため少し忙しい面もありますが、大会の他にもいろいろなイベントがあつて、とても楽しい学生生活が送れます。来年度の目標として、男子は「団体インカレ出場」、女子は「全ての大会において前年度の成績を上回る」というものを設定しました。女子は4回生の方2名が卒業され、人数が更に減ってしまうので新しい女子部員が来てくれればいいなと思っています。部内には大学からバドミントンを始めた初心者もいます。経験を問わず、バドミントンをやりたい方、同級生や先輩方と深い関わりを持ちたい方、島根大学バドミントン部を自分が強くしてやろうという方は是非第二体育館に足を運んでみてください。



島根大学剣道部は半世紀以上の歴史があり、過去に全国での入賞し続けたこともある伝統のある部です。現在私たちは境師範の下で男子18人、女子7人の計25人で全国大会出場、全国大会で勝ち上がることを目標に週6日の稽古に励んでいます。部員は剣道の経験が深い者から浅い者まで様々ですが、日々志高く稽古しています。稽古時間は1時間30分と短いですが、その中で各自が課題点を明確にし、克服を目指して自主的に稽古に励んでいるため、とても密のある時間を過ごせています。その結果、今年度の試合において、女子は全国大会への連続出場、中国五大学競技会では男女団体アベック優勝といった結果を残すことができました。また島根大学剣道部のOB、OGの先輩方も、全日本選手権大会、全日本剣道女子選手権大会への出場を代表として様々な分野での活躍をつづけられています。

島根大学剣道部は半世紀以上の歴史があり、過去に全国での入賞し続けたこともある伝統のある部です。現在私たちは境師範の下で男子18人、女子7人の計25人で全国大会出場、全国大会で勝ち上がることを目標に週6日の稽古に励んでいます。部員は剣道の経験が深い者から浅い者まで様々ですが、日々志高く稽古しています。稽古時間は1時間30分と短いですが、その中で各自が課題点を明確にし、克服を目指して自主的に稽古に励んでいるため、とても密のある時間を過ごせています。その結果、今年度の試合において、女子は全国大会への連続出場、中国五大学競技会では男女団体アベック優勝といった結果を残すことができました。また島根大学剣道部のOB、OGの先輩方も、全日本選手権大会、全日本剣道女子選手権大会への出場を代表として様々な分野での活躍をつづけられています。

島根大学剣道部は半世紀以上の歴史があり、過去に全国での入賞し続けたこともある伝統のある部です。現在私たちは境師範の下で男子18人、女子7人の計25人で全国大会出場、全国大会で勝ち上がることを目標に週6日の稽古に励んでいます。部員は剣道の経験が深い者から浅い者まで様々ですが、日々志高く稽古しています。稽古時間は1時間30分と短いですが、その中で各自が課題点を明確にし、克服を目指して自主的に稽古に励んでいるため、とても密のある時間を過ごせています。その結果、今年度の試合において、女子は全国大会への連続出場、中国五大学競技会では男女団体アベック優勝といった結果を残すことができました。また島根大学剣道部のOB、OGの先輩方も、全日本選手権大会、全日本剣道女子選手権大会への出場を代表として様々な分野での活躍をつづけられています。

島根大学剣道部は半世紀以上の歴史があり、過去に全国での入賞し続けたこともある伝統のある部です。現在私たちは境師範の下で男子18人、女子7人の計25人で全国大会出場、全国大会で勝ち上がることを目標に週6日の稽古に励んでいます。部員は剣道の経験が深い者から浅い者まで様々ですが、日々志高く稽古しています。稽古時間は1時間30分と短いですが、その中で各自が課題点を明確にし、克服を目指して自主的に稽古に励んでいるため、とても密のある時間を過ごせています。その結果、今年度の試合において、女子は全国大会への連続出場、中国五大学競技会では男女団体アベック優勝といった結果を残すことができました。また島根大学剣道部のOB、OGの先輩方も、全日本選手権大会、全日本剣道女子選手権大会への出場を代表として様々な分野での活躍をつづけられています。



## 半世紀以上の伝統を受け継ぐ

### 剣道部

# 武士道精神の奥深さを知る

## 居合道部



### 居合道とは…

「居合道」と聞いてすぐにはどんなことをやっているのか浮かんできく方はほとんどいないと思います。居合とは模擬刀(刃引き)を演武する武道です。部員構成は半分が剣道や弓道などの武道経験者で、もう半分が刀や袴、武道に憧れて入部した人たちです。当部にはこのようにさまざまな経歴の人間が集まっていますが、どの部員も部活を通して痛感するのは、居合道の見た目のカッコよさだけでなく、古から伝わる武士道精神の奥深さ、おもしろさです。

### 逆境をチャンスにかえて

私たち居合道部は創部して間もないために決して練習環境が整っているというわけではありませんが、たとえ与えられた練習場所がなくても自分たちの手で創り出すよう励んできました。練習場所の確保において剣道部の方や学生支援センターの職員の方々のやさしさにただただ感謝するばかりです。全国大会でも一



心に自分の演武ができたのは、このような環境下で養われた部員たちの自主性と、決して諦めない雑草魂があったからではないかと思っています。

そして私たちが居合を続けられるのは、学内の方々と並び道場の先生、卒業生の先輩などこんな居合道部を暖かく見守ってきてくださった方々のおかげであるということに刻み今回の大会成績に驕ることなく日々鍛錬してゆきたいです。

●主な成績／全日本学生居合道大会団体戦の部 準優勝

●ホームページ「島根大学居合道部」<http://www.geocities.jp/shinadaido/index.html>  
充実したホームページがあるので居合道部についてもっと知りたい人はぜひ一度ご覧ください！

## Close Up!

## 活躍した学生たち



大学での現役最後の夏ということもあり、夏休み期間中の練習には特に力を入れ、悔いの残らないよう精一杯やりました。

全国の国公立大学の大会は、全国大会であるにもかかわらず予選大会が行われません。そのため、出場選手が非常に多く、試合数もかなりあります。閉めた切った体育館で競技を行うた

め、体力的にも厳しい条件でありました。また、今年に関してはインフルエンザによる大会会場での規制や対策にも気を使わなければなりません。そんな中でも、試合のコートにいたら気持ちを切り替え、目の前の相手に集中することを心がけました。

毎日一緒に練習してきた部員の声援が、私にとってなによりも大きな力になりました。部員のみなさんに心から感謝したいと思っています。

また来年も良い結果が残せるよう、これからも練習に励みたいと思います。



大学2年生になって今まで初めて、西日本インカレ・日本インカレ・地元で開催されている出雲駅伝といった大舞台の大会に出場することができました。出雲駅伝に関しては私が地元の島根県出身であったために出場したいと思っていたことや、中

国四国学連選抜として出場することが決まったら地元大学の学生であったということもあり、特別な思い入れがありました。結果的には自分の力が及ばないこともあり、あまり良い成績ではなかったかもしれませんが、これらの大会において、受けた刺激や経験は自分にとって貴重なものであったのではないかと思います。この刺激や経験を活かして、今後ともタイムをのばしたり、大会で実績を残したりできるように精進していきたいです。

### 三賀森智哉くん

陸上競技部●教育学部2年生  
出雲駅伝出場 (中国四国学連選抜第1区走者)

### 森山 夏樹さん

卓球部●生物資源科学部3年生  
第49回全国国公立大学卓球大会女子シングルス3位

# 地域で活躍する学生たち

## 人命救助で表彰。

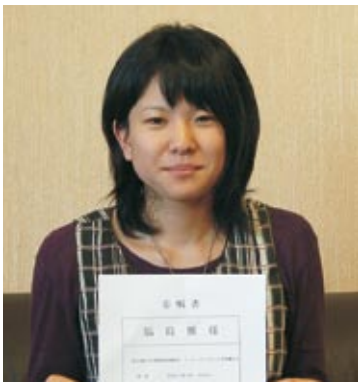
医学部看護学科2年の武田真紀さんは、4月3日(金)の13時頃、出雲市古志町のスポーツセンターで、同町の男性(66歳)が急性心筋梗塞により倒れ、心肺停止状態に陥っているところに居合わせました。そこで、武田さんはこのセンターの職員2名と協力し、授業で基本操作等を習っていたAED(自動体外式除細動器)を操作し、懸命に救命手当を継続し、到着した救急隊に引継ぎを行いました。この迅速な対応により、その男性は順調に回復され、5月23日に無事退院、社会復帰されました。



表彰式は6月22日(月)に出雲市消防本部において行われ、救命活動を行った武田さんら3名に消防長から表彰状が授与されました。

## ユース・アシスタントに任命。

松江署管内で青少年の健全育成に協力するボランティア「ユース・アシスタント」第1号に生物資源科学部2年の福島雅さんが任命されました。もともと島根大学の学生と川津交番で少年補導委員として夜間パトロールを定期的に行っていた。この活動の募集に福島さんが応募したところ、まだ未成年であったため断られ、そのかわり新たに設けたユース・アシスタントに任命されました。任期は2年で警察官や少年補導員と一緒に松江管内の学校で開かれる非行防止教室や街頭啓発に活躍されています。将来の夢は警察官で、大学で学んだ知識を生かし、現場鑑識などで活躍したいそうです。



## 島根大学は島根スサノオマジックを応援します!

いよいよ本年10月より日本プロバスケットボールリーグ(b1リーグ)に島根県初のプロスポーツチーム『島根スサノオマジック』が参入します。アリーナスポーツであるバスケットボールの公式戦は毎年10月から翌年の5月にかけて行われ、各チーム52試合(2009-2010シーズンの場合のホーム&アウェイのレギュラーシーズンを経て、勝率上位チームでのプレーオフ&ファイナルによって王座を争います。そして昨年12月に島根県内のデザインに携わる学生を対象に行われた、スサノオマジックのロゴマークの応募に、教育学



部 美術教育専攻4回生の青山直樹くんの作品が、見事スサノオマジックのロゴマークに選ばれました。ロゴコンセプトは、スサノオノミコトがヤマタノオロチを退治したときに出てきた、天叢雲剣とその時に現れた雲が表され、また、3000の1部が星にデザインされ魔法のイメージと剣の輝きが表現されています。このロゴはチームの顔として選手のユニホームに使用されるのはもちろん、各種ポスター・グッズなどにも使用され、今後県内のあらゆるところで目にするものと思われます。思わぬところで我が大学と縁も出来たスサノオマジック、今後の展開に期待しましょう。

チーム Mascot キャラクター 募集中!

詳しくは島根スサノオマジック公式HPで <http://www.probasket-shimane.com/>

# 島根大学支援基金寄附者一覽

ご協力ありがとうございました。(平成21年3月、12月末現在)

島根大学では、平成18年12月に「島根大学支援基金」を創設し、学生の修学環境の整備充実事業と旧奥谷宿舍の修復活用事業のための寄附金を募集しております。ここでは、「寄附をいただいた皆様への謝意としてお名前を掲載させていただきますいております。」

※ご寄附をいただいた皆様の中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

## 法人等からの御寄附

(50音順・敬称略)

島根大学OB会

## 個人からの御寄附

(50音順・敬称略)

石田一成 市川真澄 伊藤浩世 伊藤亮輔 稲垣豊徹 上村真一 上村徹一 大谷玲子 大谷真誠 大村光一 大村敦一 岡部昌道 奥部昌道 落合俊夫 片山信英 角山敬英 岸森祐子 小池良明 小浦昌之 小谷哲也

小林昭生 坂本雅之 迫田茂之 佐々木茂 佐々木聡 佐藤彦彦 篠原久子 篠原久子 須藤功太郎 瀬川暢子 妹島貫子 高橋英二 高橋昭宏 滝沢ミチコ 竹内純治 戸谷純治 飛田憲彦 豊田彦彦 鳥居賀彦 中尾和猛 永野悠子 鍋谷悠公 西村悠公 野村悠公 秦津明隆 林正久

原佳治 原孝之 原正伸 稗田良一 久恒美 深川正太郎 深川伸太郎 福田雅信 福田雅信 藤原貞雄 藤原貞雄 舟木史織 本木史織 前田俊護 前田俊護 前田誠康 松田好誠 三原順子 三原順子 元上松子 元上松子 森川裕司 森川裕司 森田宏一 森田宏一 森田三宏 森田三宏 森脇公嗣 森脇公嗣 山崎稀嗣 山崎稀嗣 横山正嗣 横山正嗣 横山正嗣 渡辺幸雄

## 同窓会から

# 第3回ホームカミングデー 歓迎式典並びに 大学ホール竣工記念式典を開催

10月3日(土)に「第3回ホームカミングデー歓迎式典」並びに「島根大学ホール竣工記念式典」を開催しました。ホームカミングデーは、卒業生の皆様に現在の島根大学の様子や教育・研究・医療等の活動状況を理解していただくとともに、同窓生同士の交流又は在学生との交流の機会としてもらうために始まったもので、歓迎式典、キャンパスツアー、各学部同窓会主催事業などを実施しました。

歓迎式典では、山本学長及び江口同窓会連合会長の挨拶のほか、各学部同窓会長の紹介の後、「島根大学ホール」と「島根大学60年の歩み」について、スライド上映が行われ、多くの出席者の郷愁に浸る姿が印象的でした。

式典のフィナーレは、本学卒業生で国内外において活躍されているテノール歌手 松江隆司氏〔ピアノ伴奏・笠井桃子氏〕によるテノール独唱では、旧島根大学歌「緑水たゆたふ」、「誰も寝てはならぬ」、「愛燦燦」など、全9曲を披露されました。

また、式典終了後には、場所を移して祝賀会が行われました。



スライド上映



学長挨拶



熱唱する松江隆司氏

## 投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。学内から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などお気軽にお寄せください。ご投稿をお待ちしています。

▶投稿先 〒690-8504 松江市西川津町1060  
島根大学総務部総務課あて  
Fax : 0852-32-6019  
E-mail : jsy-bunsyo@jn.shimane-u.ac.jp  
ホームページ : http://www.shimane-u.ac.jp

# 新病棟完成!に向けて 看護師・助産師 大募集!!



明るく、ほがらかで、看護が好きな私たちと一緒に働きませんか

クリニカルラダーの到達目標に沿った研修を  
企画しています。



協働して  
《自律した看護職》  
を育成します。

新卒者・経験者に関  
わらず、卒後臨床教  
育専任スタッフが  
支援します。



技術研修



リフレッシュ研修



海外研修

働きやすい職場を目指した  
ライフサポート  
があります。

- 2交代・3交代勤務
- 認定看護師奨学金制度
- 学内大学院進学
- 看護師宿舎(全個室・無料)
- カウンセラーによる支援
- メンター制度
- 院内保育所(病児保育有り)

など

## インターンシップ

- 平成22年 3月23日(火)・24日(水)
  - 平成22年 8月10日(火)・11日(水)
- ※先輩看護師との交流会もあります。

## 病院見学・ 病院説明会【随時】

※保護者の方の同伴も可能です。

初任給(正職員)

.....短大3卒.....  
**242,000円**から  
(主要手当を含む。)

国立大学法人 人とともに、地域とともに  
**島根大学医学部附属病院**  
Shimane University Hospital

●詳しくはホームページへ  
<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2011年  
新病棟  
完成!!

皆さまのご応募  
お待ちしております

島根大学医学部附属病院では、平成23年6月の新病棟オープンに向けて、看護サービスの一層の充実を図るために、看護師・助産師の大幅増員を予定しており、広く募集を行っています。  
新病棟のオープンにより、大学病院としては全国初の腫瘍センターと緩和ケアセンター病棟を持つと同時に、ヘリポートを有する救急救命センターを開設し、高度先進医療提供体制が整う予定です。また、卒後看護研修のモデル事業にも取り組む予定で教育専任スタッフを増強しています。さらに、医療技術の基本を専任教育スタッフにより、模擬ICUなどで実践的に学べるスキルアップセンターも開設しました。看護師の医療技術のレベルアップに病院全体として取り組んでいます。  
また、大学病院唯一の「働きやすい病院評価」に認証されており、院内保育所や病児保育、フレキシブル勤務体制もしっかりサポートしています。キャリアアップを目指す人には認定看護師奨学金があり、資格取得後は看護専門外来ほか専門職で活躍していただいています。